

Uターン

弘前市→東京都→
海外→弘前市

奈良岡 和也さん
The Digital X 合同会社
(デジタルマーケティング)
2020年7月創業

Case 06

ボーダーレスに働ける時代 大切なのは自分のピンの立て方。

青森県を離れ、海外で活躍してきた奈良岡さん。
ポジティブな姿勢とニューノーマルな働き方で U ターン創業。
現在は青森に拠点を置き、海外とも仕事をする。

タイからのUターン

高校卒業後、東京のスノーボードビジネスの専門学校に入学した奈良岡和也さん。スノーボードメーカーの営業として3年勤めた後、転職を決意。32歳で海外留学に挑戦した。フィリピンの語学学校を経てオーストラリアのマーケティングカレッジで2年間学び、卒業後はマレーシアにある日系企業に入社。現地支社へ配属となる。その後、デジタルマーケティングの新規事業立ち上げに尽力して支社長になったものの、他社からのオファーを受けて今度はタイへ。積極的に仕事に向き合ってきたが、新型コロナウ

イルスの流行でタイのプロジェクトは頓挫。次に奈良岡さんが考えたことは、地元弘前で独立することだった。

「周囲に社長が多い環境だったし、せっかくなら自分も一度くらい創業してみようかと思った」

ビザが残り2カ月で身の振り方に悩んだが、「Uターン+創業」で補助金があるということも背中を押した。

創業はオンラインで

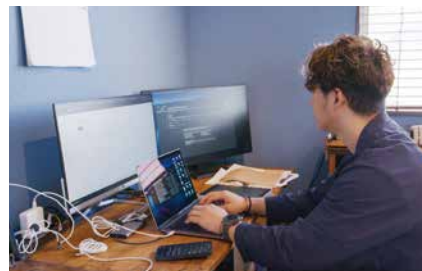
ひろさきビジネス支援センターと創業の話を進める中で、結果的には補助金の対象外となってしまったが、弘前での創業に迷いはなかった。

「創業の相談をオンラインでできたことは非常に助かりました。帰国までにできることはやっておこうと準備を進めることができたためスムーズでした」

支援センターに相談をして良かった点は、金融機関との面談で間に入ってくれたことや、会計や資金調達の面で心強かったと奈良岡さんは振り返る。事務所の物件探しはすぐに決まり、事業計画書の審査も問題なく通った。帰国してわずか1カ月という短期間で、無事に弘前で創業することができた。

Uターン創業の魅力

自然があり、のんびりと暮らせ



日々クライアント企業のウェブサイトをチェックし、集客数や広告収益などにアドバイスや提案を行う

世界から青森に戻ってきた男



ることだけでなく、地方だとランニングコストを抑えられることも地方創業の魅力だと語る奈良岡さん。東京であれば事務所を借りる費用だけで頭を抱えるような問題になるが、奈良岡さんは弘前駅前の好立地にオフィスを構えることができました。暮らしやすい場所の方が仕事の質も上がると感じている。

「どこでどう生きたいか。肝心なのは自分のピンの立て方で、都会だろうと地方だろうと場所には関係ないのでは」

創業してからは健康に気を遣うようになった。業務はほぼ一人で行っているため、いかにクオリティを保つかが課題となる。同時に、創業者として年に1つは新しいプロジェクトを立ち上げることを自分に課しているという。2021年はフードデリバリーサービスを弘前に導入し、翌2022年には大好きなスノーボードのEC事業を始めた。今は地元向けのデジタルを活用したコンサルティング事業を考えている。



The Digital X 合同会社

<https://www.thedigitalx.net/>



くわしくは動画をチェック!!!

